

平成25年度 施策達成度評価シート (24年度実績評価)

施策の柱		施策	
コード	名称	コード	名称
7	快適な都市機能	73	快適な居住環境の実現

評価責任者名	建設部長 藤田 公典
評価シート作成者名	建設部次長 古山 裕康

1 施策の目的(目指す姿)

対象 (誰を,何を対象としているのか)	意図 (この施策により対象をどのように変えるのか)
市街地,その他の市域,市民・民間事業者,区画道路,利用者	快適な居住環境が確保される

2 達成度

(1)成果指標

指標名	単位	指標の性格	H23実績値	H24計画 (年度目標値)	H24実績値	H25計画 (年度目標値)	H26計画 (最終目標値)
市民アンケート調査「快適な居住空間である」と答えた市民の割合	%	↗	45.5	49.0	46.2	50.0	55.0
市道舗装率	%	↗	81.9	83.0	82.0	83.0	85.0

(2)近隣自治体との成果水準比較

指標名	他自治体の状況等
市民アンケート調査「快適な居住空間である」と答えた市民の割合	比較データ無し
市道舗装率	・東北6県中核市の市道舗装率 青森市:66.1% いわき市:70.7% 秋田市:89.5% 郡山市:77.5%

3 達成度評価結果

取組内容と成果	■ 快適な居住空間に対する市民満足度については、市道改良の促進や市民の協力を得ながら除雪路線延長の増加に取り組んだ。特に、除雪については、小型除雪機の増強や状況を踏まえた排雪の実施などに取り組んだ。また、未利用地対策については、区画整理事業に取り組むほか、民間宅地開発については、良好な居住環境を形成するよう指導に努めた。この結果、目標値には達しないものの、前年度より割合が増加した状況にある。 ■ 舗装率は、未舗装道路における舗装整備に取り組み、舗装延長は増加したものの新に市道認定した路線が増加し、前年度とほぼ同数の82.0%で、郡山市等と比較して高いものの、目標値である83.0%には達しなかった。
成果を押し上げた要因	■ 快適な居住空間に対する市民満足度の割合が0.7%アップした要因としては、市道改良延長の増加、除排雪への取り組み、盛南エリアを中心とした土地区画整理事業に取り組んできたこと考えられる。また、アンケート調査結果においては、市民協働による居住環境の構築に対する市民意識が高まっており、市民協働による取り組みが進められ、この結果、居住環境が向上してきているものと考えられる。
目標と成果とにギャップがある場合、その要因	■ 快適な居住空間に対する市民満足度については、道路の整備や維持管理の取組みに対する満足度のうち、約3割以上が「不満」と思っていることが要因の一つと考えられ、近年課題となっている道路の適切な維持管理も一因と思慮される。また、震災等を踏まえ、住宅の耐震化に対する不安も要因の一つとなっているのではないかと考えられる。 ■ 市道舗装率は、市道の舗装整備延長は増加しているものの、新たに市道認定した路線が増加したことによる。
これからの課題	■ 道路の維持管理については、一層のパトロールや市民からの情報収集に努めるながら、市道の現場状況を適切に把握し長寿命化に向けた舗装打換え等の効率的な維持管理が重要であることから、計画的に適正な維持管理費の確保を図りながら取り組む必要がある。 ■ 除排雪については、今後も市民の協力を得ながら、除排雪委託業者や除排雪車両の増強を図り、適切な除排雪の取り組む必要がある。 ■ 木造住宅耐震支援事業は、平成27年までの診断目標1,100戸で、平成18年度から24年度までの実績590戸となっており、近年は申し込みが減少傾向にあり、震災後においても増加が見られなかったことから、市民ニーズの把握に努め、より応募しやすい形や周知方法について検討を行う必要がある。また、近年課題となっている空き家対策についても取り組むこととしている。 ■ 居住環境の向上の要因となっている宅地開発については、近年、開発可能地が限られ開発許可件数や開発面積が減少している状況にあり、市街化区域における未利用地等について、平成21年度に見直した許可基準を運用しながら、住宅地の供給と良好居住環境の構築を図るとともに、危険宅地対策等に取り組んでいく必要がある。

4 各主体に期待する役割

	役割の内容
市	生活道路環境の向上のため各種事業適正な実施
国・県・ 他自治体	生活道路環境の向上のため各種事業適正な実施
市民・NPO	生活道路環境の向上のため各種事業適正な実施
企業・その他	生活道路環境の向上のため各種事業適正な実施

5 成果達成への基本事業の貢献度

コード	基本事業	比重
	名称	
731	生活道路環境の向上	65
732	良好な住宅地の誘導	35

平成25年度 施策達成度評価シート (24年度実績評価・基本事業の状況)

施策の柱		施策	
コード	名称	コード	名称
7	快適な都市機能	73	快適な居住環境の実現
基本事業			
コード	名称		
731	生活道路環境の向上		
評価シート作成者名		建設部次長 古山 裕康	

1 基本事業の目的(目指す姿)

対象 (誰を,何を対象としているのか)	意図 (この施策により対象をどのように変えるのか)
区画道路, 利用者	道路環境の向上が図られる

2 成果指標

指標名	単位	指標の性格	H23実績値	H24計画 (年度目標値)	H24実績値	H25計画 (年度目標値)	H26計画 (最終目標値)
市道改良率	%	↗	73.4	73.7	73.5	73.9	74.3
市道除雪率	%	↗	70.39	70.59	71.57	71.73	72.00

3 役割分担分析

		役割の内容	役割分担 比率(%)
各主体の 役割の状況	市	生活道路環境の向上のため各種事業の適正な実施	70
	国・県・ 他自治体	市が実施する各種事業への技術的支援や補助金等の交付	10
	市民・NPO	市が実施する各種事業への理解と協力及び市民協働意識の向上	10
	企業・その他	市が実施する各種事業への協力と支援	10

平成25年度 施策達成度評価シート（24年度実績評価・基本事業の状況）

施策の柱		施策	
コード	名称	コード	名称
7	快適な都市機能	73	快適な居住環境の実現

基本事業	
コード	名称
732	良好な住宅地の誘導

評価シート作成者名	建設部次長 古山 裕康
-----------	-------------

1 基本事業の目的（目指す姿）

対象 （誰を、何を対象としているのか）	意図 （この施策により対象をどのように変えるのか）
市街地, その他の市域, 市民・民間事業者	・快適な住宅地が形成されている ・建築物が適正化されている

2 成果指標

指標名	単位	指標の性格	H23実績値	H24計画 (年度目標値)	H24実績値	H25計画 (年度目標値)	H26計画 (最終目標値)
市街化区域内における未利用地面積	ha	↘	190.9	182.9	186.5	178.5	141.1

3 役割分担分析

		役割の内容	役割分担 比率(%)
各主体の 役割の状況	市	本市における良好な住宅地の誘導については、市民の理解と協力を得ながら、市が主体的に行うものである。	70
	国・県・ 他自治体	市の要請に応じ、関係機関として必要な意見等を示してもらう。	5
	市民・NPO	市とともに、良好な住宅地の誘導に取り組む。	20
	企業・その他	必要に応じ、市や市民とともに良好な住宅地の誘導に取り組む。	5